

CINE FASHION #7

第7回 悪趣味を満載した  
ファッション・テロリズム

「クズ映画の帝王」の異名を持つジョン・ウォーターズの最新作、  
「セシル・B・シネマウォーズ」には、楽しくなるほど悪趣味があふれている。

文=中野香織



クズ映画の帝王。

嘔吐映画のプリンス。

いかれたセシル・B。

これすべて、誰もまねのでき

ない(したくない)悪趣味映画

を撮り続けてきたジョン・ウォ

ーターズに冠されてきた名誉あ

る称号である。このなかから3

番目のものをそのままタイトル

にして、御年54歳になる極細髭

の紳士は、悪趣味と映画偏愛が

ほとばしり出るような最新作を

撮った。「セシル・B・ディメン

テッド」。

20世紀初頭のハリウッドのタ

イクーン、セシル・B・デミル

の姓を「メンタルな面がいけれ

た」という意の「ディメンテッ

ド(Demented)」と頭韻を踏ませ

つつ置き換えた(つまりおやじ

ギャグだった)悪趣味なこの原題

は、「セシル・B・シネマウォー

ズ」という内容説明的な、つま

り無味乾燥な邦題に変えて公開

される。言葉の壁がもどかしい

ともあれ、邦題が示すとおり、

「すべての映画的不正者に死を！」

と映画テロリストたちが暴れま

くるこの怪作には、ウォーター

ズ印のファッション・テロリス

ムも満載である。

「目覚めた女」の変身

映画テロリストに誘拐される

ハリウッドの大女優、ハニー・

ホウィットロックを演じるのは

メラニー・グリフィス。いかに

もハリウッド女優然としたゴー

ジャス・ビッチから、ディメン

テッド一派によって手を加えら

ラ映画の女王へと変身するのだ

が、この変貌ぶりがまずすばら

しい。

そういえばこの人は出世作の

「ワーキング・ガール」でも衣装

とメイクで「目覚めた女」の変

貌を鮮やかに見せてくれたが、

「セシル・B」での変身はその自

己パロディなのだろうか。鏡の

前での下着姿ご披露シーンもあ

ることだし。いずれにせよ、「過

剰な下品さからシンプルな上品

さへ」が見せどころだった「ワ

ーキング・ガール」の変身より

も、その逆を過激にやっていた

た「セシル・B」の変身の方が

はるかにカッコいい。

黒いタートルと革パンツの上

にピンクのシャルネル風ジャケッ

トの袖を引きちぎり、黒革の袖

をつけてはおってしまおう着こ

ななんてどうだ。ちぎった袖は

なんとベルトにひっかけて妖し

いアクセサリーにしている。テ

ロリストのふんどし?

衣装デザインとメイクは「ピ

ンク・フランミンゴ」以来ウォー

ターズと組んできたヴァン・ス

ミスが担当している。彼は「相

手をじっくり見て、どうやれば

相手のいちばん悪いところを引

き出せるかを考える」のだそう

だ(ジョン・ウォーターズの悪

趣味映画作法)、青土社)。観察

の結果は、メラニーに施される

ヘアダイとメイクにも発揮され

る。「天使の輪ができるほどつや

る。その結果、「わたしだったら、

何て醜いの」と本人も思わずつ

ぶやくスタイルに。うわっ、よ

くぞこまで。テロリストと一

緒にわたしも彼女に拍手したい。

ウォーターズがこの役をメラ

ニーに依頼するために自宅を訪

れたとき、彼女はドク口が描か

れたTシャツを着てノーメイク

で現れたそう。メラニーには

素地があったのだ。彼女の「内

なる腐敗」を十全に引きだした

スマイスの手腕を讃えよう。

ファッション的

不正者に死を!

今春夏の流行は白黒のモノト

ーン、ですって。モノトーンの

個性的な着こなしのお手本なら、

この映画のなかにある。ポルノ

女優チェリッシュ役のアリシア

・ウィットが着る服がそれだ。

縦縞の下着風ミニワンピースに

横縞のタイツをあわせ、牛柄の

ジャケットをはおる。これを見

てしまつたらもう今年はモノト

ーンなんて着られない。チェリ

ッシュのファッション・テロは

成功だ。

ほかの出演者たちのいでたち

も、いちいちウォーターズ&ヴ

アン・スマイスの美意識に貫かれ

ている。セシル・B役のステイ

ーヴン・ドーフの着るジャケッ

トはいったい何だ? 包帯がぶ

らさがったようなバックルには

何の意味が? 背中にもまでつい

てるぞ。モスグリーンのモコモ



んて言っているような服である。

素顔のウォータース監督自身はコム・デ・ギャルソンをお召しになる。昔、ギャルソンの穴の空いているハンカチを買って、「両親に「なんでこんな穴の空いたものにお金を払うの?」といふかられたそうである(プレノン・アッシュのW嬢談)。

おそろしいことに、ギャルソンのスキヤンダラスな前衛性が結果として本流のファッションを先導することになったように、ヴァン・スマスの悪趣味衣装も「当人がすっかり飽きてしまったころになって、パリのファッション・ステージを闊歩する」(前掲書)のである。デイヴァインに着させたフィッシュテイルのドレスみたいに、袖をちぎったシャネルスーツを着たセレブの写真がグラビアページを飾る日も遠くない(?)。

### 悪趣味とは?

世間のウォータース評に倣って悪趣味悪趣味と書いてきたが、では、悪趣味とは何だ?

英語において「悪趣味 (Bad taste)」の反対語は「良き趣味

(Taste)」ではない。「無味乾燥 (Tasteless)」である。

また、「パッドティスト」(集英社文庫)の著者、荒俣宏氏によれば、悪趣味とは美とモラルとハーモニーの対極にあるものであるが、良き趣味と悪趣味は互いに対立するものではなく、補充しあうものである。つまり、無味乾燥で散文化的な世界に對峙するという志をもつ点では良き趣味も悪趣味も同類なのである。氏の言葉を借りれば、悪趣味とは、「美の下半身」。

そんな悪趣味の効用を荒俣氏は説く。「パッドティストを、魂の健康を取り戻すための服用薬として試すかぎり、この世のすべては興味の尽きない驚きの対象となる」と。そういえば「タイム」誌のリチャード・コリスも「セシル・B」の映画評にこんなコメントを書いていた。「悪趣味を賢く服用すればかくも陽気で楽しくなる」。どちらも薬のアナロジーを使っている点に注目したい。過剰摂取は認めないと警告しているのである。

そこでウォータースである。金髪をメラメラと燃やすメラニ

ー・グリフィスの雄姿は、「魂の健康を取り戻すための賢い服用薬」という範疇におさまっているだろうか。さらに言えば、「ピंक・フラミンゴ」で犬のウンチを食べるデイバインや、「シリアル・ママ」で法廷で脚の開閉をやらかして証人をたぶらかすキャスリーン・ターナーは。

1972年の「ピंक・フラミンゴ」の評にはこんなものがあった。「不安の限界を超え、シヨックの限界を超え、娯楽の限界を超えている。つまり、ビヨーキである」。ビヨーキは28年経つてなお真性であることが確認されるばかり。美学のテーゼで許される悪趣味の限界も超えている。

1月末の来日時には、合羽橋でフェイクの食品サンプルを大量に買っつけていかれたようだ。ご自分のお部屋に飾って楽しむのだとのこと。「部屋が気持ち悪すぎる」とやめたメイドに同情する。こんなお方に美学のテーゼは通用しない。いかなるテーゼも通用しないという点で、この人は究極の作家であることには違いない。



ハリウッド女優のハニー・ホットロックが謎の一味に連れ去られる。その正体は、セシル・B・デメンテッド率いる映画狂集団「スプロケットホールズ」。メンバー全員がそれぞれ崇拜する映画監督の名前を刺青し、世界に蔓延する「腐った映画」撲滅のため、「予算ゼロ」「究極のリアリティ」をスローガンに、映画「狂える美女」の製作を企てている。その主演女優に迎えられたハニーは、強大なハリウッドのスタジオ・システムとの闘いに巻き込まれるうちに、真の女優魂に目覚めていく。プレノンアッシュ配給。4月下旬公開予定。